

5月度例会

5月度例会には、アレックス株式会社 代表取締役社長兼CEO 辻野晃一郎氏が講師として登壇されました。辻野氏は1957年生まれ、84年に慶応義塾大学大学院工学研究科を修了し、ソニーに入社。88年にはカリフォルニア工科大学大学院電気工学科を修了されています。ソニーではVAIOなどのカンパニープレジデントを歴任後、2006年3月にソニーを退社し、翌年の2007年にグーグルに入社されました。グーグル日本法人代表取締役社長に就任、2014年4月にグーグルを退社、その後、アレックス株式会社を起業されています。

今回の例会では、産業構造の変革について、注目すべき内容をわかりやすくご講演いただきました。主にインターネットの出現により、あらゆることの再定義が進んでいることを述べられました。



Section 1.

before Internetとafter Internetについて

インターネットが無かった時代とインターネットが普及した現在から未来にかけての時代について、産業構造が全く違わないといけないと定義されました。これは、日本の産業構造の変化があまりにも遅く、モノづくりにおける日本の特徴が発揮できない構図になってしまっているということです。具体的には、日本の家電製品がインターネットの世界では無用の長物になってしまっている現実があります。インターネットの普及とともに

にクラウドによるデータの移動やソフトウェアのダウンロードが容易になり、家電=ITツールといった「あらゆることの再定義」がされず、いまだに家電の領域から離れられない構図があり、過去の産業構造のままであると指摘されました。



Section 2.

「あらゆることの再定義」とは？

before Internetからafter Internetに変化したときに、ものの見方や考え方を、根本から変えなければならないということです。

after Internetの時代は、インターネットを使うことにより無限のコンピューターのパワーを利用することが可能になります。さらにクラウドコンピューティングの時代に入り、さらに加速されているのが現実です。

日本のモノづくりの構造は、産業構造そのものに垂直統合型が多く見受けられ、情報の伝達が非常に遅く、リアルな情報の伝達のスピードが鈍化しているとの指摘がありました。クラウドコンピューティングの時代に入った現在から未来にかけては、水平分業型がさらに加速的に進むと予測されます。具体的にはアップルのコンピューターなどはアウトソーシングにより台湾のウォンファイなどによる労働集約型産業を活用しながら製品の開発を進めており、製品をcash cow=金のなる木(1)とし、日本の液晶TVのようにdog=負け犬(2)になり、コモディティ化(他商品との差

別化がなくなること)による価格競争から撤退を余儀なくされる構造にはなってはいません。

(1)(2)プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント (PPM) 参照

Section 3-1.

ITデバイスとしての車の再定義 (製品における再定義の具体例)

グーグルは自動運転システムの開発を進めており、これは、今まで自動車のモノづくりという概念ではなく、心臓部(コア)はコンピューターにより制御され、その制御をつかさどるのが人工知能ということです。イーロン・マスクが起業したステラ社の自動車は、動くITデバイスとして存在し、今までの自動車メーカーの設計思想や作り方は全く異なっています。

Section 3-2.

シェアリングエコノミーという概念 (製品における再定義の具体例)

Airbnb (エアビーエンプー)は、宿泊施設を貸し出す人向けのウェブサイトを運営しています。自宅の空き部屋をシェアし、情報を提供することによりビジネスとして成り立つというプラットフォーム戦略の手法です。宿泊予約の概念を根本から変えた事例であり、**after Internet**の時代に宿泊というカテゴリーの再定義が行われ、インターネットの力によりビジネスチャンスが生まれた一例です。

Section 4.

薄れていく日本の存在感と日本の長寿企業について

after Internetの時代に入り、日本の存在感がなくなりつつあることが否めません。メガトレンド



ドを見誤ると、未来に向け大きな痛手になるばかりか、時代の潮流にのれず衰退の域になることが懸念されます。具体的には企業のライフサイクル(創業・成長・安定・衰退)を考えると、新しい会社、新しい起業家の育成を急がなければならないと思います。

その一方で、日本には世界に誇れる長寿企業が多くあります。日本の長寿企業には、日本型経営の秘められた強みがあります。日本型経営には、人を中心としたネットワークの構築が根本にあり、米国型の資本財としてのお金を中心とした資本主義とは異なることが特徴であるといえます。

このことは、新しいグローバルスタンダードを日本の価値観から確立するときであるとも言えます。



Section 5.

人工知能と社会構造の変化について

2045年は、人工知能(コンピューター)が人類を超える日と言われていています。職業において検索や情報に頼る職業は人工知能に代わると言われています。

このことは、はるか遠い未来の話のようですが、すでに人工知能の開発は急速に進んでいます。視野を広く持ち、遠くを見る見識や知見が知恵となり、「一身にして多生を経る」時代がきていると感じています。

編集後記：時代の潮流を見定める力をつけ、さらにクラウドコンピューティングという無限の力を得ることができる時代の今こそ、ビッグチャンスであると言えるかと確信した内容でありました。次回は「神野沙樹さんと外村会長との対談」です。どうぞ期待!!

広報委員会 編集 川瀬陽義

北大阪商工会議所青年部



会員募集

若き起業家集団
Young Entrepreneurs Group

同じ地域の経営者として、いろいろな
考え方や個性を持った仲間達に
出会えれば・・・
きっとあなたの会社の経営にも活かせる
ことが見つかるはず！

2015年度スローガン

「勇往邁進」

ゆめ
未来を創造し、共に創る

〒573-8585 枚方市大垣内町2-12-27
TEL 072-843-5163 FAX 072-841-0173
北大阪商工会議所青年部事務局
<http://www.kitaosaka-cci.go.jp/yeg/>



平成27年度会長 外村 淳



年に一度の総会



月に一度の例会



音楽サークル「KA・NA・DE」